

事例番号:290278

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 0 日

16:35 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 0 日

20:37- 陣痛促進のため子宮収縮薬(オキシトシン注射液)の投与開始

妊娠 39 週 1 日

2:40- 回旋異常、遷延分娩のため吸引分娩開始

吸引術 3 回のうち 2 回は子宮底圧迫法を併用

2:46 経膣分娩、後方後頭位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 1 日

(2) 出生時体重:3326g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.271、PCO₂ 48.0mmHg、PO₂ 18.2mmHg、
HCO₃⁻ 22.1mmol/L、BE -5.2mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 6 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 3 ヶ月 両上肢の異常(手のつっぱりや手先の運動が乏しい)を認める

生後 5 ヶ月 発育遅延あり、脳性麻痺の可能性あり

(7) 頭部画像所見:

1 歳 1 ヶ月 頭部 MRI で、大脳基底核・視床・中心溝を含めて信号異常を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名、小児科医 2 名

看護スタッフ:助産師 6 名

2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因は、低酸素性虚血性脳症の可能性があるが、本事例における低酸素性虚血性脳症の原因および発症時期を解明することは困難である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

(1) 胎児胸水を認め、妊娠 21 週 1 日に A 医療機関に紹介としたことは適確である。

(2) 妊娠 28 週 5 日に腹部緊満、痛みがあり受診した際、診察で子宮口の開大を認め、切迫早産の診断で入院管理としたことは一般的である。入院中の管理は概ね一般的である。

(3) 妊娠 38 週 3 日に前駆陣痛のため入院管理したことは選択肢のひとつである。

(4) その他の妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 39 週 0 日 16 時に 10 分毎に痛みがあると妊産婦から電話相談があり、陣痛発来と判断し来院を勧めたことは一般的である。

(2) 妊娠 39 週 0 日 20 時に児頭の下降がみられず、陣痛が弱いと判断し、オキシ

ン注射液で陣痛促進としたことは一般的である。口頭で同意を得たことは一般的ではない。

(3) オキシトシン注射液投与による陣痛促進において、妊娠 39 週 1 日 0 時までの開始時投与量、増加量、増量間隔は一般的である。また、その間胎児心拍の連続モニタリングを行ったことは一般的である。

(4) 妊娠 39 週 1 日 0 時 8 分以降の胎児心拍数異常に対し、オキシトシン注射液の継続・増量を行ったことは一般的ではない。

(5) 妊娠 39 週 1 日 2 時 40 分に回旋異常、遷延分娩のため吸引分娩を実施したこと、吸引分娩の方法(吸引回数 3 回、総牽引時間 20 分以内)は基準内である。

(6) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

(1) 生後 5 日までの管理(低体温および呼吸管理)は一般的である。

(2) 児の退院後に外来受診(生後 11 日、13 日)としたことは医学的妥当性がある。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

ア. 子宮収縮薬(オキシトシン注射液)の投与中に胎児心拍数異常を認めた場合は、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」の胎児心拍数波形レベル分類に沿って対応することが望まれる。

イ. 子宮収縮薬使用時には文書による同意を得ることが望まれる。

ウ. 胎児心拍数陣痛図所見は、胎児心拍数のみならず、胎児心拍数波形の判読所見も合わせて記載することが望まれる。

【解説】本事例では、分娩室入室後の胎児心拍数陣痛図所見は、胎児心拍数のみの記載しかされていなかった。

エ. 胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、新生児仮死が認められた場合には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。